

福 井 県 医 師 会

だより

第688号 平成30年(2018)10月



光を浴びて

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：光を浴びて

鯖江市 清水 元博

ひまわりは、北アメリカが原産で16世紀にイギリスに伝わり「太陽の花」とよばれました。花が太陽の動きにつれてまわることから「ひまわり」と名づけられましたが、実際に太陽を追って動くのは生長が盛んな若い時期だけのようです。

撮影場所の大野市「スターランドさかだに」は、六呂師高原を背景にいち早く満開のひまわりを楽しめるスポットです。撮影当日は快晴でやや順光気味でしたが、青空を背景に光に映えるひまわりを撮影することが出来ました。

向日葵の ゆさりともしぬ 重たさよ 北原白秋

## 醫 縫 録

# 最近、花を植えてみました

福井県医師会監事 越 野 雄 祐



4年間県医師会学術担当理事としてお世話になったあと、坂井地区医師会の庶務理事を担当することになったため一昨年県理事を辞することになりました。やれやれ、これで忙しかった県理事の仕事から解放されると思ったら、あろうことか地区医師会の事情から今度は県監事を拝命することになってしまい、再び県理事会に参加することになりました。

以前の学術担当から比べればはるかに仕事も少なく、負担は軽くなっていますが毎月1回は県医師会館に通う生活はさらに続くことになっています。4年間の学術担当時代は仕事も多く、県外出張もあり大変でした。何回かの東京をはじめとした県外出張もありました。東京出張と言っても早朝に三国を出発して駒込の日本医師会館に直行。会議終了後はそのまま上野か東京駅に引き返し新幹線で帰るという弾丸出張で東京らしさを味わうことはほとんどできませんでした。一度でいいから「孤独のグルメ」で紹介されていた駒込の食堂に行きたかったのですが、もうそれはかなわぬ夢となりました。しかし、この県理事としての4年間は私の医師人生において決して無駄ではありませんでした。

私は開業するまでは、いや開業してからも医療制度や医療政策に関心はなく、国政選挙になると医師会が候補者の応援とかに出していくのを遠目に見ては「あんなこと医師の仕事じゃないよ」とそっぽを向いていました。ですが県理事になって医療と中央政治、医療と地方行政との関係の深さをつぶさに勉強させてもらってからは、考えが180度変わりました。この国の医療は国民皆保険のもとに、好むと好まずにかかわらず政治と切っても切れない関係にあることがよく分かりました。医師の代表を議員として国会に送り込むことが日本中の医師ひとりひとりにとっていかに重要であるかが身に染みました。この先、県医師会の役職から離れても医療と政治のことについて十分関心を持っていきたいと考えています。また今後、超高

齢化社会を迎えるにあたって、高齢者の医療は在宅医療にどんどん傾いていきつつあります。今、在宅医療を担っている先生方も高齢化していきます。これからの在宅医療の担い手の確保は喫緊の課題と言えます。地域包括ケアのもとに多職種連携をいかにうまく機能させるか、そして地域住民を巻き込んでのフレイルや認知症予防への取り組みも必要でしょう。地域医療構想や医師の働き方改革、新専門医制度による医療界への影響など問題は山積しています。そしてその先には人口減少時代がやってきます。その頃には私ももう引退しているかあるいはあの世に行ってしまったかもしれないかもしれませんが、息子の時代になったときに日本の医療界が、あるいは日本そのものがどうなっているのかまだ想像も実感もできません。まああまりバラ色の世界が待っているとは到底思えません。しかし今の私にはそんな先の心配をしている暇はありません。自分の診療所の経営、庶務理事としての仕事、そして家族のことなどに忙殺されている毎日です。

最近、空いていた植木鉢に花を植えてみました。おそらく自らの意思で花を植えたのは生まれて初めてだと思います。まあちょっとした気まぐれでしたが、今その小さな2株の花はびっくりするほど増えてその大きめの植木鉢からはみ出るほどに小さくも多数の可憐な花をつけて咲き乱れています。毎週水をやり、肥料をやっている自分にびっくりしています。今度はもっといろいろな花を植えてみようかなと考えています。忙しく悩ましい日々は今後も続いていくでしょう。しかし、花に水をやり、育てていく、そんな心の余裕を持っていければ困難も乗り越えられるし、少しは楽しい人生かもしれないと考える今日この頃です。